

◆神棚と日本人の暮らし

わが国は、戦後の高度経済成長により目覚ましい発展を遂げてきました。それとともに、日本人の生活様式や生活のリズムも随分と様変わりしてきました。

しかし、そんな時代になっても日本人には、お正月やお盆には里帰りをし、また、人生の節目に神社にお参りするなどといったことが習慣として



すっかり定着しています。

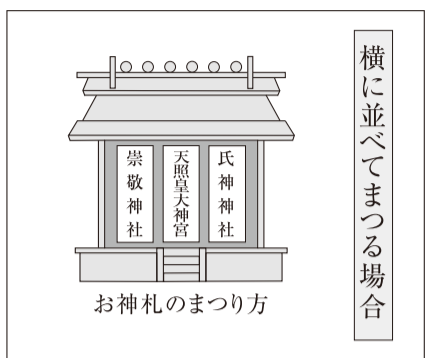
それは、神さまを自分たちの祖先と考え、生命を神さまからいただいで生きているという日本人の伝統的な生命観が無意識のうちに受け継がれているからでしょう。

日本人にとって神さまは、自分たちの生活とかけ離れた存在ではなく、ともに生きる身近な存在なのです。それは、「お天道さまが見ている」とか「バチが当たる」という言葉をよく耳にすることからもわかります。

各家庭に神棚があるのも、神さまとともに生きる日本人の暮らしぶりの表れです。人生には、自分の意志ではどうすることもできないことがたくさんあります。しかし、神棚をおまつりして毎日の無事を祈り、「神さまのおかげ」をいただきながらさまざまなことを乗り越え、一つ一つ年を重ねてゆくからこそ、年を祝うことに特別な意味があるのです。

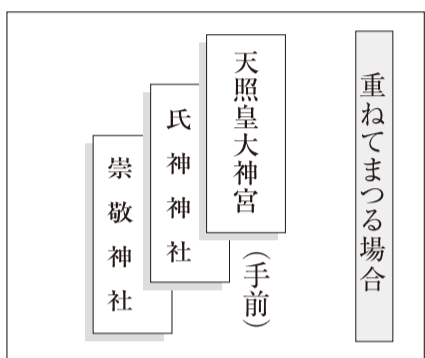
お神札のまつり方

神棚は、目の高さより少し上におまつりし、お神札が南か東に向くのが一般的ですが、間取りによってはおまつりにふさわしい明るく清らかな場所であれば良いでしょう。



横に並べてまつる場合

お神札のまつり方



重ねてまつる場合



おまつりの一例

また、神棚のない家庭では、タンスや書棚の上に白い紙を敷き神棚が整うまでおまつりするの也很好いでしょう。

おかげさま……

と、いう言葉

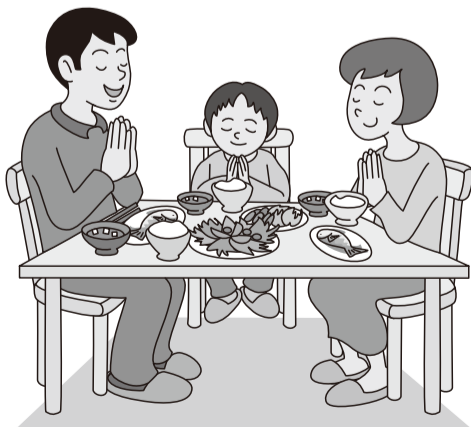
「食べ物を粗末にしてはいけませんよ」、子どもの頃、苦手な食べ物の前に、親からそう言われた思い出はありませんか？

太陽などの自然の恵みや、この世に生きとし生けるものの活力を戴いて、私たちは日々の生命を繋いでいます。お米の一粒一粒にも生命が宿つていることを「残さず食べなさい」、と言われるたびに教えられたものです。

私たちは、大自然や人と人との関わりの中で、生き、生かされています。何かの折にふと口をついてこんな言葉がでてきます。「おかげさまで」。

そう口にするたび、あらゆる恵

みによって生かされているという心を思い出させてくれるこの感謝の言葉は、私たち日本人が抱いてきた素直な気持ちの現れなのです。



✧神前結婚式のご案内

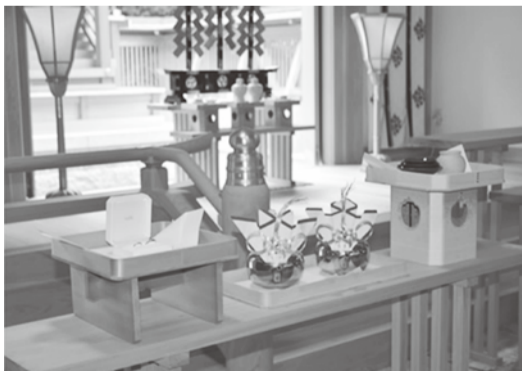
檜の香り芳しい厳かな神殿において、お二人の誓いをお立てになりませんか。当社では、お二人だけの挙式からご友人の方々も参列頂ける挙式まで対応させて頂きます。

挙式料：五万円

(お二人のみの挙式の場合は応談)

参列可能人数：五十名

※神殿内は冷暖房を完備しています。また、駐車場から拝殿までスロープを利用して車イスのままご参列いただけます。



※貸衣装のご紹介、その他お気軽にお尋ねください。
※当社に披露宴会場はございません。

国旗・神棚は当社でもお頒ちしております。(国旗一セット 千五百円・神棚 各種)

